

児童が作る松花堂弁当

八幡小学校の6年3組の児童26人が2月14日、松花堂弁当作りに取り組みました。

この取り組みは、市教育委員会や栄養教諭が、八幡発祥である松花堂弁当を児童たちの手で作ってもらいたいと、「京都吉兆」松花堂店の村上寛治顧問に依頼したのが始まりで、毎年、6年生の全クラスが別々の日程で取り組んでいます。

児童たちはこの日を迎えるまでに、村上顧問が昆布や削りかたおでだしをとったお吸い物を試食したり、野菜の煮物の作り方を学んだりしてきました。また、主菜2品を班



弁当箱に料理を盛り付ける児童たち

「京都吉兆」が協力 八幡小学校

ここに自分たちで考え、冬休みに自宅で練習してきました。

児童たちは前日に煮物を仕込み、当日は手羽先やハンバーグなどの主菜2品とお吸い物作り。火加減や味付けに気をつけながら、みんなで協力して料理していました。

完成した松花堂弁当は、6年間の感謝の気持ちを込めてお世話になった先生たちを招待し、「一緒にいただきます」。

笹井和さん(12)は「頑張ったので、先生たちがおいしそうに食べてくれてうれしかったです」と達成感に満ちあふれていました。

記念日に桜添える



桜の木の根元に化粧砂を入れる参加者たち

2月16日、八幡市民スポーツ公園で桜の記念植樹が行われ、9組27人の市民が記念日の思い出作りに参加しました。

この取り組みは、子どもの誕生や還暦などの節目を記念した思い出作りと同時に、緑化への興味を持ってもらうとうと、八幡市公園施設事業団の主催で毎年行われており、今回で4回目になります。

また、将来的に桜の回廊づくりを目指しており、現在までに植えられた17本の桜の木に加えて、今回は9本が植樹されました。

市民スポーツ公園で植樹

同公園の東側駐車場の周りや歩道沿いに植えられた約4本の桜の木。その前には、名前や記念日などが刻まれたプレートが建てられています。

参加者たちは桜の木の根元にスコップで白色の化粧砂を入れ、それぞれの記念日に花を添えています。

3人の子どもの誕生記念で植樹に参加した宮脇雅子さん(36)は「よく遊びに来る公園なので、自分で植えた桜の木があると楽しみが増えていますね」と笑顔で話していました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

元気に豆まき「鬼は外！」

園児たちが元気に過ごせることを願って、節分の豆まきが2月3日、有都こども園で行われました。園児114人は、市商工会青年部員が扮する鬼に向かって豆をまき、自分の心にいる「弱虫鬼」や「怒りんぼう鬼」も一緒に追い払いました。

同会は地域貢献の一環として、園児たちに伝統行事である節分の豆まきを知ってもらおうと、鬼役として毎年、市内の幼稚園などに協力しており、今年は4園を訪れました。

太鼓の音が鳴り響くと、園庭に4人の赤鬼や青鬼が登場。突然現れた鬼に対して、元気に向かっていく園児がいる一方で、怖がって泣き出す園児もいましたが、最後はみんなで力を合わせて「鬼は外！」と大きな声を出しながら、鬼に向かって豆をまいていました。

柏本一彦くん(5)は「鬼が出てきても怖くありません。豆をいっぱいまいて、弱虫鬼も怒りんぼう鬼も追い払えた」と元気いっぱいでした。



迫ってくる鬼を怖がる園児たち

ダブルダッチに挑戦 橋本小児童

交互に回る2本のロープの内側を跳ぶ「ダブルダッチ」の学習が2月5日、橋本小学校で行われ、4年生から6年生が挑戦しました。

同校は、児童たちが普段目にしないようなすごい技を見ることで、自分でもチャレンジしようとする気持ちを持ってもらいたいと、同学習を初めて企画しました。

最初に、講師として招かれた佛教大学のダブルダッチサークル「佛跳」のメンバーが、音楽に合わせてお手本を披露。両足で

跳ぶ基本技、さらに、バック転でロープを抜ける大技などが決まると、児童たちから大きな拍手が起こりました。

その後、児童たちが挑戦。初めは慣れないスポーツに苦戦して、すぐに引掛かったりしていました。しかし、徐々に慣れていくと、最後には片足だけや、駆け足しながら跳べるようになっていました。

横山哲平くん(11)は「リズム良く跳ぶのが難しかったけど、できるようになると楽しかったです」と初めてのダブルダッチを満喫していました。



交互に回るロープを跳ぶ児童